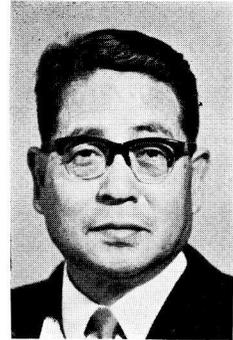


京都市長

ごあいさつ

松橋 水心



京都市立吉祥院小学校が創立百年を迎えられましたことは、まことに意義深くわたくしの心からの喜びとするところであります。

ここにその創立以来の歴史をかえりみますと、明治五年の学制発布と期を一にして上鳥羽小学校の分校として開校され、明治十年独立して吉祥院小学校と称し、昭和六年京都市に編入されて、今日に至っているわけであります。

その設立に当たっては、国や府などの行政機関の手によってではなく、地域の人々の意志と手によって設立されたということです。

その後、明治大正昭和の三代にわたり、幾多の困難な情勢を克服して、地域のみなさんともにも進展をつづけ、数多くの有為の人材が輩出されてきました。

わたくしは、この歴史の中に先人たちの教育に対する深い理解と熱意とともに、自分たちの

町は自分たちで守り育てていこうという高い自治意識を感じるわけであります。

申しあげるまでもなくわが京都は、「日本人の心のふるさと」として、また、「千年の文化の都」として、広く世界的に親しまれていきます。

わたくしたちは、わたくしたちの祖先が守り育ててきたこの町を、京都の人の意識の中に古くからこんにちまで一貫して流れる「まちを愛する心」と「自分たちのまちは自分たちの手で」という自治の精神とでもって、これからもよりよくきざきあげていかなければならないと思います。

当吉祥院の地域も、紀伊郡吉祥院村から出発して昭和六年京都市下京区となり、昭和三十年以来、京都市南区となっております。

今やこの地域は、京都市にとりましても重要

な特色ある工業地域であるとともに、京阪神をつなぐ要衝でもあり、その重要性は日を追うて益々深くなるわけであります。

歴史のみやこ京都の中での当地域のもっておられる歴史と、現代の京都市に占める当地域の意義とが、たくみにまじり合い織りなしかつてますますよい吉祥院地域になるよう助け合っておられるみなさまに深く敬意を表し、なおいっそうお力をお貸しくださることを願っております。

明日の京都のない手をつくるのは教育であります。わたくしは、地域のみなさんとも子どもを大切にし、子どもと母親が安心してくらせるような町づくりのため、まい進したいと決意いたしております。

吉祥院小学校のいっそうの発展を心から祈念いたします。



対し、人類は、宇宙をとびまわるまるい地球の全体をはじめて見たわけでありませす。ここから

わたくしは、この歴史の中に先人たちの教育に対する深い理解と熱意とともに、自分たちの

以来、京都市南区となっております。
今やこの地域は、京都市にとりましても重要

おいわい

京都市教育委員長

中垣内勝久



京都市立吉祥院小学校が創立百年という画期的な記念の年を迎えられたことは、まことにめでたく衷心より慶祝に存じます。

顧りみますと、わが京都市が学問文化の中心として今日のような繁栄をみるに至ったことは明治以降多年にわたって培われてきた教育の発展と充実に負うところが、きわめて大きいと言わなければなりません。

そしてこのことは、京都においては、明治五年の学制発布にさきがけて小学校が創立されたことに端を発するわけでありませう。

吉祥院小学校においては、たまたまこの学制発布と期を一にして上鳥羽小学校の分校として明治五年に創立され、明治十年独立して吉祥院小学校と称するようになりました。これは、地域の人々のご協力によって生まれたものであります。

地域有識の方々が、教育に対しいかに深い理解と先見をお持ちになっただかを思い、まことに敬服に堪えません。

爾来百年、幾多の変遷はありましたが、常にその輝かしい伝統は継承せられ、しかも、時代に対応して内容と施設は不断に整備充実にされ今日の発展をみるに至りました。その間における歴代ご関係の先人各位のご努力とご熱意に対し、深く敬意を表する次第であります。

今や二十一世紀につらなる新しいビジョンが語られる時代に、わたしたちは立っているわけでありませう。しかも、時の流れが二十世紀から二十一世紀へとつづくという時間的な流れだけではなく、アポロの成功に象徴される宇宙時代の開幕という人類にとって全く新しい段階にさしかかっているわけでありませう。つまりいままで観念としてもっていた「地球」のイメージに

対し、人類は、宇宙をとびまわるまるい地球の全体をはじめて見たわけでありませう。ここから出発する人間の新しいものの感じ方・考え方は画期的な飛躍を生み出す源泉になるであろうと考えるのであります。

この時に当たり「故きを温ねて新しきを知る」意味において、百年を記念して今日までの輝かしい教育の歩みを回想し、明治の先人の卓見とそれをひきつぎ築きあげた伝統と校風を顧みて明日の教育に新しい希望と方向を求められ、将来の躍進を期されますことは、まことに意義深いことでありませう。

ここに、吉祥院小学校開校百年に当たり、今後のいっそうの充実発展を祈念して、祝辞と致します。



吉祥院校の百周年に寄せて



前校長

岡本和夫

吉祥院小学校創立百周年 おめでとうございます。

わが国に学制が發布されたのは明治五年八月三日でありますから、本年は学制發布の百周年に当たります。吉祥院小学校はそれから間もない十月十七日に創立されています。以来百年の間校地の拡張、校舎の増改築が相次ぎ、有為な人材を多く社会に送り出してきたわけであります。

国家百年の計として、日本の国を伸展させ、世界の先進諸国に負けない立派な国にするためには、何れともあれ教育を振興しなければならぬと決意した明治新政府の遠大な理想は、今日から考えても高く評価されますが、それにもましてこれに応じた教育に要する施設や費用を、みずから負担して、進んで学校の設立に踏み切った町村住民の意欲は、まことに立派なものであります。

さて、私の吉祥院校の在任は、昭和四十四年四月から四十七年三月までの三ヶ年間で、うち

第一年目は岡田校長先生に教頭として仕えたものであります。第二年目、はからずも岡田校長先生ご勇退の後を受けて、吉祥院校の校長を拝命することになり、百周年に取り組むことになりました。

百周年の直前二年間の校長として、その準備前期を担当した関係上、これにまつわる経緯や思い出は懐しいものであります。今その一端を披露することを許していただくと、吉祥院校の百周年は学校がおかれている複雑な条件から、他校区のようにひたすら百周年を目標に直線的に推進することができなかったということができます。即ち人口増加地域の学校として、児童の急増対策としての逐年の校舎増築計画、(昭和三十九年度以降隔年に行なわれました。)頭初から百周年主体事業に想定された講堂の改築計画、さらに今日既に限界にきている児童増から避けられない分校建設の促進、この三者が相互にかみ合いながら鼎立複雑する困難な出発点でありました。このうち第一の校舎増築計画は、学級数の増加の状況に照応して三教室の増築にとどまりました。(昭和四十六年度中完成)第二の講堂改築は市当局によって耐用年数の関係から時期尚早といわれました。その結果、百周年の記念事業と切り離さざるを得なくなり、最終的には一般的な記念事業と分校問題が並列した形で宿案として残されることになったのです。

この間、四十三・四年度は福田会長、四十五・六年度は芳岡会長を中心に、育友会はいうに及ばず、区内各種団体や地域の代表の方々、また有識者の皆さんが、常に児童の福祉を念頭において、学校の立場に立って協議、交渉を重ねていただきました。その熱意や努力に頭の下る思いでありました。

当面の百周年につきましては、山下委員長を中心に、真に百周年の意義を明確にして、学校、児童を軸とし、その上に立った全学区的祝賀を具現するよう考案し、区内各位の同意と協賛を求められたのであります。

こうした時機に、まことにはからずも当局の命により、本年四月私は現任鏡山小学校長に転任を命ぜられ、しばし呆然として為すところを知らなかった次第です。しかし冷静にかえりますと共に後任の四方校長の練達な手腕と、熱意溢れる区内諸賢の有難い児童愛、学校愛に満腔の信頼を託せることのできることを知り、安んじて去ることができました。

爾来数ヶ月、果せるかな計画は順調に進捗し茲に輝やかしい百周年記念日を迎えることになりました。感慨無量、これに優る喜びはありません。

ただ私はこの慶賀すべき秋に際し、残された宿案として先にも触れました、学校をめぐる現下の吉祥院学区の実情に鑑み、所見の一端を述べて諸賢の参考に供したいと思えます。

さて、私の吉祥院校の在任は、昭和四十四年四月から四十七年三月までの三ヶ年間で、うち

校地の南側に延々と伸びた南校舎、鉄筋三階建二十七教室は確かに雄大なもので、小学校には珍しい偉観を示しています。既に耐用年数点に近い本館や北校舎、さらに講堂が、新しい校地計画に基づく配置に従って改築されますことは時間の問題で、これらが完成の暁の吉祥院校が楽しみです。典型的な大規模校として誇るべき構想となりますことはじゅう分想像できます。その時点での学校正門付近（駐車場を含む）の整備にも深く配慮されますことが望ましいことでもあります。

吉祥院学区にとって、分校問題はこれとは別個に喫緊の要件であり、いわゆる吉祥院の教育施設長期展望の上に立って、その早期実現が強く待望されます。

これらの学校施設を中心に、幸い区内に数多い児童公園を中心に緑化を図り、桂川を面目一新して、立派な河川沿い公園の景観の整備を促進し（現に府下でも鴨川中流域では完成をみえています。）こうして吉祥院一帯が、南の要衝、文字どおり京都市の南玄関の面目を整えてほしいものと思います。

往時、洛南の農業地帯として繁栄し、米穀は勿論、その良質豊富な蔬菜類を洛中に提供したこの広域の農村の近代化に即した見事な変身を期待してやみません。

百周年に際して、私の吉祥院に託する夢は広がるばかりであります。吉祥院校と吉祥院学区

が並列した形で宿案として残されることになったのです。

の発展を心より祈念して、この稿を結びたいと思います。

創立百周年を迎えて



京都市立吉祥院小学校
百周年記念事業協賛会
会長 山下正治

吉祥院小学校が明治五年に創立されて以来百年という意義ある年を迎えました。

この画期的な記念の年を迎えるにあたり、校下の皆様の総意によりまして百周年記念事業協賛会が結成され、記念の式典をはじめ、記念誌の発刊、教育設備の整備等の附帯事業が行われますことは、誠に意義深いことでありまして、皆様とともにご同慶に堪えないところであります。

開校以来百年その間幾多の変遷はありましたが、先人各位の脈々たる教育愛と不断の努力によって立派にその伝統が承けつがれこの輝かしい歴史がつくられたのでございます。

私共は茲に改めて関係各位のご努力とご熱意に対しまして、深く感謝を致しますとともに衷心より敬意を表する次第であります。

現在の日本社会は、激しい風波にさらされて大きくゆれ動いています。教育の問題もまた決

下で諸賢の参考に供したいと思ひます。

して例外ではございません。新しい時代を迎えるにあたって、わが国の教育全体が大きく改革されようとしていることは、先般の中央教育審議会の答申を見ても明らかであります。勿論こと教育に関し私ども素人が軽卒に批判すべき問題ではありませんが、それだけに今後の動行について深い関心をもつわけでございます。

「故きを温ねて新しきを知る」。意味に於て、百周年を記念し、本校教育の歩みを回想して、明日の教育に新しい希望と方向を求めていただくことをおねがいするものであります。

終わりになりましたが、百周年記念事業協賛会の各位並校下の皆様方その他関係の皆様方の絶大なるご協力に対しまして、心からお礼を申し上げます。

温故知新



吉祥院小学校長
四方光夫

明治五年といえは、王政が復古し、欧米諸国に吾して行くためには、教育の力により民心を一新し、近代日本を築かなければならないとして、学制が発布された年であります。すなわち従来の寺子屋教育では人間形成の上から、或は

社会の発展に貢献する人材養成の上から不充分であると考へ、市民が均しく教育を受けられるよう計られたわけでありませう。

当時、学制発布と同時に、村民相寄り協議して学校創設の運びにいたしました。吉祥院村字吉祥院小字船戸に民家三戸を購入し、第四番学区上鳥羽校の分校として発足しました。村民の方々の教育を尊重された熱情をうかがい知ることができました。教育制度が整備された今日においても、一学校を創設することのむつかしさは誰しも知るところであります。明治初年における村民の方々のご苦心と、教育に対するご熱意は、まことに測り知れないものがあります。

明治十年には上鳥羽校より独立して吉祥院校と称するようになり、同時に西中校を分離しましたが、明治二十年再び西中校を合併しました。吉祥院はもと／＼菅公ゆかりの由緒深い土地がらであり、京都市南郊の平和でのどかな農村でありまして、創立当時の児童数は百七十八名でありましたが、昭和初年より次第に工業地帯として、また産業交通上の要衝として目ざましい発展をとげ、本年五月一日現在児童数は千七百九名の多きに達し、市内でも有数の大規模校となりました。

この間、幾度行われた校地の拡張、校舎の増改築、教育施設の整備充実等にも明らかに見

るように、創立以来昭和六年の京都市編入までの村民の方々や、昭和十六年学区制の廃止までは申すに及ばず、戦中戦後の困難な時代を経て、今日に至るまで、学校の発展と教育推進のためにお尽くしくくださった区民の方々のご熱意は、教育尊重の歴史と伝統として継承され、今日までも脈々として伝わっています。

中でも特筆すべきことは、昭和九年九月二十一日の室戸台風による校舎の倒壊であります。今日とこととなり、何の前ぶれもなく突如として龍来した強烈な暴風雨でありましたが、区民各位のご支援助と、当時の教職員の適切な指導処置により、多数在校していた児童に何らの傷害もなく済んだことであります。

この度、創立百周年を迎えるに当たり、早々に区内有志の方々が相寄り、京都市立吉祥院小学校創立百周年記念事業協賛会を組織され、区内挙げて、教育上有意義な慶祝の計画を進めていたゞきました。これ全く、協賛会役員・委員の方々を中心として、区民の方々の学校を愛し、教育を尊重するご熱意のたまものでありまして、学校といたしまして深く感謝申し上げますとともに、ご同慶に湛えませぬ。

また、百周年の記念すべき日を迎えるに当り記念事業の一環として協賛会のご好意により、ここに吉祥院校創立百周年記念誌が発刊されましたことは、きわめて有意義でありまして、本校といたしましてこの上ない光栄であります。

す。

歴史は常に次の時代への発展の礎であり、伝統は新しいものを生み出してこそ真の伝統といえます。創立百周年は次の百周年への出発点でもあります。吉祥院校百年の歴史と伝統をふり返り、この記念すべき年を吉祥院教育に如何に生かすか、輝やかしい歴史と伝統を受け継いで創造していく吉祥院教育はどうあらねばならぬかの認識を新たにし、次代を背負う青少年の教育に邁進することこそ、私たち職員の課題であり責務であります。

温故知新ということばがありますが、これは教育者として片時も忘れてはならない名言であります。創立百周年という意義深い年に本校に在職させていただくことのできました私たち教職員は、この光栄と感激を堅持して、吉祥院校のために身を挺してご尽瘁いただいた区内の方々のご熱情とご労苦を身に帯し、歴代校長教職員の方々の教育方針を受け継いで、協力一致、吉祥院教育進展のために励んでいきたいと存じております。

後になりましたが、本誌発刊に当りまして、格別のご配慮をたまわりました記念事業協賛会の役員委員の方々や、資料を提供していただきました方々、貴重な原稿をいたゞきました方々、編集にご尽力くださった委員の方々、その他関係の各位に対しまして衷心より御礼申し上げます。